



Better Health, Brighter Future

はじめに

私たちは、ESG の影響や取り組みにおいて、高い透明性をもって開示することが、ビジネスを行う上で重要な要素であると考えています。気候変動、天然資源の枯渇、 社会的不安、急速に変化するテクノロジーなどによる世界的な混乱に直面し、かつては非財務リスクと考えられていたものが、重要かつ体系的なものになりつつありま す。企業は、ESG 課題に対して顧客、投資家、従業員、ポリシーメーカーなど多くのステークホルダーからの監視の目が厳しくなることに向き合わなければなりませ ん。タケダも決して例外ではなく、投資家を含む多くのステークホルダーから情報開示を求められています。

私たちは ESG 評価機関や投資家の期待をより良く理解し、その優先順位を事業活動や情報開示に反映させるために、日常的に ESG 評価機関や投資家との対話を行っています。その対話のなかで ESG が投資家の意思決定に影響を与えるようになり、ESG 情報開示の必要性が高まっていることを再確認しました。この点を考慮し、様々な媒体を用いタケダの ESG 方針、実績、およびデータに関する重要情報を開示し、アクセスを容易にするために、この ESG Appendix を作成しました。タケダは、サステナビリティ会計基準審議会(SASB)のバイオ・製薬産業基準(本レポートを通して「S」で表示)、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)、および世界経済フォーラムとその国際ビジネス協議会(IBC - 「W」で表示)が発表したステークホルダー資本主義の測定のための中核指標に沿った報告を目指しています。私たちは 60 社以上のビジネスリーダーとともに、ステークホルダー資本主義の測定基準を採用し実行することで、患者さんと従業員、そして地球に対するコミットメントを補強することを目指しています。ESG レポートの最適化は、反復的なプロセスです。私たちは、これらのレポーティングフレームワークのすべての指標について報告しているわけではありませんが、透明性とステークホルダーに対するコミットメントを示すために、データ収集プロセスと重要な ESG 情報を継続的に報告します。

以下の表は、PATIENT:すべての患者さんのために、PLANET:いのちを育む地球のために、PEOPLE:ともに働く仲間のために、および価値に基づくガバナンスのカテゴリーおける開示情報と、最新の 2020 年度 ESG パフォーマンス指標へのリンクです。記載されている情報は、武田薬品工業株式会社および武田薬品の連結子会社の事業を含んでいます。報告期間は、特に明記されていない限り、2020 年度(2020 年 4 月 1 日~2021 年 3 月 31 日)を対象としています。特定のパフォーマンス指標は Apex Companies, LLC(第三者保証)により承認されており、 \checkmark 記号で示されています。私たちは、2021 統合報告書を補完するために、この ESG Appendix を毎年更新するよう努めます。



私たちの存在意義を果たすためのサス	テナビリティ戦略	
CEO メッセージ	◆ <u>2021</u> 統合報告書 (3 ページ)	
企業理念と私たちの存在意義を果たすための	◆ タケダの企業理念: サステナビリティレポート 2020 (4ページ)	W
サステナビリティ戦略	● ビジネスに組み込まれる私たちの存在意義: 2021 統合報告書 (9~10 ページ)	vv
私たちを取り巻く世界	● 世界の重要課題に対する私たちの見解: <u>2021 統合報告書</u> (13~16 ページ)	
重要課題(マテリアリティ)	● 重要課題(マテリアリティ)の開示とアプローチ: <u>サステナビリティレポート 2020</u> (12 ページ)	
	タケダの価値創造と経済・環境・社会における(戦略的で重要な)進捗状況: <u>2021 統合報告書</u> (19ページ)	W
戦略的なステークホルダーとのエンゲージメ ント	• <u>サステナビリティレポート 2020</u> (13 ページ)	w
ESG 格付けと評価	● ESG の情報開示と透明性: <u>サステナビリティレポート 2020</u> (14 ページ)	
報告書の作成	報告期間:報告は 2020 年度(2020 年 4 月 1 日~2021 年 3 月 31 日)を対象としています。一部 2021 年度の活動も含まれます。	
	報告サイクル:年次	
	● ESG 開示に関する窓口: sustainablevalue@takeda.com	
	◆ 外部保証:本レポートの30ページ	
	• 情報の修正再表示:なし	

S=サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) のバイオ・製薬産業基準に沿った報告を示しています。

₩=世界経済フォーラムとその国際ビジネス協議会(IBC)が発表したステークホルダー資本主義に沿った報告を示しています。



すべての	D患者さん	のために	
私たちの取り組み	み		
私たちの取り	組み	• <u>サステナビリティレポート 2020</u> (17 ページ)	
イノベーション・	への責任ある	アプローチ:有効な治療法が確立されていない疾患のための研究開発	
R&D ガバナ:	ンス	● タケダ・エシックス諮問委員会(TEAC): <u>サステナビリティレポート 2020</u> (21 ページ)	
革新的なバイ	オファーマ	過去5年間に商業化され医薬品の収益貢献度として定義されるタケダの Vitality Index は、2020 年 3 月期に 3.5%となります。これには、遺伝性血管性浮腫発作抑制薬である TAKHZYRO や非小細胞肺がん治療薬 ALUNBRIG など、希少疾患やがん治療薬のポートフォリオが大きく貢献しています。この5年間、研究開発面で大きな変革を遂げてきました。世界中の患者さんに人生を根本から変え得る革新的な治療薬を提供するために高いハードルを設定し、外部パートナーとの共同研究や強力な研究開発能力を培ってきました。このような継続的な努力と投資の結果、今後数年間で後期開発のパイプラインが充実すると期待をしており、一連の新薬の承認を目指しています。日本では COVID-19、世界ではデング熱との緊急度の高い戦いを支援する新たなワクチンの発売を目指しています。また、パイプラインの可能性を支援するために、研究開発への投資額を増加しました。そして世界中の患者さんのために、社内の研究開発体制を変革し、イノベーションを加速させ、タケダを健康とテクノロジー、そして長期的な事業成長が共存する場所に位置付けることを目指しています。	W
ワクチンパイ 拡大	プラインの	タケダのグローバル・ワクチン事業は、デング熱、COVID-19、ジカ熱、ノロウイルスなど、世界で最も困難な課題となっている感染症に最先端の取り組みを行っています。	
		2021年3月、デング熱ワクチン(TAK-003)について、欧州医薬品庁(EMA)へ承認申請を行い、受理されました。 タケダはEU-M4all (旧称: Article 58)制度を通じて、EU 域外の国々における承認を目的とした医薬品に適用される、EMA が実施する初の並行審査に参加しています。EU-M4all制度(旧称: Article 58)を通じて、EMA は世界保健機関(WHO)と協力し、EU 域外を対象として公衆衛生上の優先度が高い疾患に対する医薬品へのアクセスを促進する	



ことを目的としています。2021年中に、アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、インドネシア、マレーシア、メキシ コ、シンガポール、スリランカ、タイ、米国で申請を行う予定です。

私たちは日本でも COVID-19 ワクチンの展開に貢献しています。Novavax 社と開発と製造においてパートナーシップを 結び、光工場において Novavax 社のワクチン候補の 2 億 5.000 万回接種分以上の生産能力の整備を進めています。ま た、モデルナ社と厚生労働省との連携により、Moderna 社の mRNA ワクチン 5,000 万回分の国内への輸入と国内での 供給を担います。また、開発および製造受託機関である IDT Biologika GmbH 社と提携し、デング熱ワクチン候補 (TAK-003) の製造設備を一時的に貸し出して、Johnson & Johnson 社グループ傘下のヤンセンファーマが開発した COVID-19 単回接種ワクチンの製造に3ヵ月間活用してもらいました。

COVID R&D アライアンスの詳細はこちら:2021 統合報告書(21ページ)

最後に、ジカ熱対策として、アラムアジュバント含有全粒子不活化精製ジカウイルスワクチン(TAK-426)を開発して おり、現在、臨床第1相試験(ZIK-101)を実施しています。

詳細はこちら:

- タケダのワクチン
- サステナビリティレポート 2020 (26 ページ)

多くの患者さんが革新的な医薬品にアクセスできるよう支援する

戦略的枠組み

- **医薬品アクセスのための 医薬品アクセスの進捗状況報告書:**医薬品アクセスプログレスレポート
 - 医薬品アクセスに関するタケダの見解
 - 知的財産権と医薬品アクセスに対するタケダの見解
 - サステナビリティレポート 2020 (27 ページ)

すべての患者さんが必要な医療を受けられるようにするための価格設定

戦略

- **段階的な価格設定と価格** 価格設定に対するタケダの見解
 - 医薬品アクセス 2020 プログレスレポート(46-47 ページ)

S



	米国における価格戦略と価格設定
	● 価格設定:サステナビリティレポート 2020 (31 ページ)
治療成果に基づいた価格	
設定	価値に基づく医療(バリューベースヘルスケア)に対するタケダの見解
	● 医療技術評価(HTA)に対するタケダの見解
	• 治療成果に基づいた価格設定例: <u>サステナビリティレポート 2020</u> (31 ページ)
患者支援プログラム	価格設定に対するタケダの見解
(PAP)	● 患者支援プログラム(PAP)の範囲とアプローチ : <u>医薬品アクセス 2020 プログレスレポート</u> (46-54 ページ)
医療体制の強化	
低・中所得国	医薬品アクセス 2020 プログレスレポート (55-70 ページ)
(LMICs)における科	
学と研究能力の強化	
医薬品アクセスへのイン	医薬品アクセス 2020 プログレスレポート (97-104 ページ)
パクト測定の枠組み	
Blueprint for	医薬品アクセス 2020 プログレスレポート (81-96 ページ)
Innovative Healthcare	
Access	

S=サステナビリティ会計基準審議会(SASB)のバイオ・製薬産業基準に沿った報告を示しています。

W=世界経済フォーラムとその国際ビジネス協議会(IBC)が発表したステークホルダー資本主義に沿った報告を示しています。



すべての患者さんのために

カテコ	『リー・指標	2020 年度のデータ
	医薬品アクセス	
S	25 カ国や地域において、タケダがスポンサーとして支援する臨床試験を通じ革新的な医薬品、その他の医療支援サービスを受けた患者数 ¹	70,000
	2020年度にタケダの患者支援プログラムにより治療を受けた患者数 医薬品アクセスプログラムを実施している国と地域の数	1,467 52
	寄贈した医療機器数 メル県(ケニア)のパイロットプログラムの一環として、がんや高血圧の症状に対する認識を高め、検診を行い、健康促進のための: 域キャンペーンを実施する資格を有する地域保健ボランティアおよびトレーナー数 ²	~1,000 地 ~800
	ペークで美胞する真格を有する地域保健ホックティアおよびドレーテー数 イノベーションへの責任あるアプローチ:有効な治療法が確立されていない疾患のための研究開発	
W	研究開発への投資額- (1,000 億円) 熱帯病や病原微生物を対象とした研究開発の研究開発費全体に占める割合 研究開発従業員数 知識共有プログラム(ナレッジ・シェアリング・プログラム)に参加し、スキルや経験を NGO パートナーやヘルスケア・イニシアラ	455.8 4.9% 5,000+
W	ブに提供したタケダの研究員数	200+
	現在の研究開発パートナーシップの総数	200+
	2020 年度に新たに設立された研究開発協力機関の数	45
S Notes:	顧みられない、もしくは負荷の大きな疾患をターゲットにした研究開発におけるパートナーシップ数 臨床試験管理に関連する FDA 査察の VAI(自主的措置指示)/OAI(規制措置対象)の件数	40+ 0

Notes:

- 1 2020 年度末時点でプログラムに参加している患者数
- 2 2019年3月~2020年12月31日
- \$ サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) のバイオ・製薬産業基準に沿った報告を示しています
- ₩ 世界経済フォーラムとその国際ビジネス協議会 (IBC) が発表したステークホルダー資本主義に沿った報告を示しています



ともに働く仲間のために

私たちの取り組み

私たちの取り組み

サステナビリティレポート 2020 (35 ページ)

エンゲージメントと生涯学習

私たちのアプローチ

- 私たちのアプローチ:サステナビリティレポート 2020 (38 ページ)
- インターンシップおよび大学院プログラム
- 生涯学習と成長を促す文化を創造することが必須となっています。そのため、従業員のキャリアにとって有益な外 部学位プログラムに参加するための学費補助制度を地域ごとに用意しています。また、正社員およびパートタイム 従業員が知識やスキルを向上させ、必要な資格を維持するために、部門や組織レベルでの支援を行っています。こ れには、ワークショップ、セミナー、会議、研究会、継続教育単位(CEUs)が付与されるコース、学位を付与し ていない機関でのコースなどが含まれ、従業員の職務遂行に必要または適切であると上司やマネジメントが要求ま たは承認したものです。
- 2019 年 1 月のシャイアー社の買収に伴い、エンゲージメント・サーベイを休止し、統合パルス・サーベイを実施す ることで、全従業員からのフィードバックを継続的に収集し、その結果に基づいた対策を行っています。2018年度 から 2019 年度にかけて、3回のパルス・サーベイを実施しました(2019年2月、2019年6月、2020年2月)。 従業員の心身の健康状態やストレスレベル、さらには事業環境における基本的なニーズを広く理解することを優先 すべきと考えています。2020年度は従業員エンゲージメント・サーベイの代わりに、従業員ケアサーベイを実施す る決定を下しました。従業員ケアサーベイは、COVID-19 前と後の世界で従業員が抱える新たなストレスやニーズ を理解し、対処するために実施されました。そして、調査結果を公表することで従業員の意識向上を図るととも に、グローバルおよびローカルレベルで様々な資源を提供することで調査結果に基づいた対応を開始しました。世 界中にいる経営陣や従業員が行動を起こすことで、その勢いはさらに加速していきます。タケダでは、2021年度に 包括的なグローバル従業員エクスペリエンス・サーベイを開始する予定です。この調査では、エンゲージメント、 ウェルビーイング、その他の従業員の経験に関する項目を網羅します。私たちは、従業員が仕事に意欲的に取り組 むためには、精神的・身体的ニーズに最優先で応える必要があると考えています。調査の詳細についてはこちらを ご覧ください:2021 統合報告書(50ページ)。



健康と安全

私たちのアプローチ

- 環境・健康・安全(EHS)に関するグローバルポリシー
- 健康と安全: サステナビリティレポート 2020 (39 ページ) 及び 2021 統合報告書(49~50 ページ)
- ウェルビーイングは、タケダの従業員を大切にする文化の礎です。ワーク・ライフ・バランス、心と身体の健康、 経済的、家族、そしてコミュニティのニーズを満たす行動を支援しています。タケダの存在意義である「世界中の 人々の健康と、輝かしい未来に貢献する」は、私たちがウェルビーイングを大切にし、仲間をサポートすることで 初めて実現可能になります。労働時間や時間外労働、労働時間上限関する各国の法律を遵守するために、方針や慣 行、時間管理システムを導入しています。例えば日本では、労働時間は国の法律で認められている時間よりも短く 設定しており、マネージャーや従業員には、時間外労働の上限に近づいていることを通知しています。

W

● 従業員をすべての活動の中心に置いており、組織改革の際にも従業員を第一とする考えにコミットし、対応してい ます。タケダでは、組織改革の影響を受けた従業員に対して、退職年金制度を設けています。タケダの従業員は優 れた人材であるとの考えにもとづき、個人への通知の前後に、影響を受ける可能性のある従業員に対して社内の雇 用機会の提供に努めています。国により個別・集団協議が必要となる場合、その法の精神や趣旨を含め、各国や地 域で適用される全ての法的義務を果たすことを約束します。

タレントマネジメント

私たちのアプローチ

- リーダーシップ育成プログラムとアプローチ:サステナビリティレポート 2020(40-41ページ)及び 2021 統合報 告書(52ページ)
- バーチャルな勤務環境での採用活動:サステナビリティレポート 2020(42ページ)
- 長期インセンティブプランと従業員米国預託株式購入制度(ESPP): サステナビリティレポート 2020(42ペー ジ)
- グローバルリスク管理ポリシーは、その原則のなかで、この方針は、すべてのビジネスユニット、事業部門、ロー カルオペレーティングカンパニー(LOCs)に公開され、閲覧可能となっています。エンタープライズ・リスク・ マネジメント(ERA)プロセスでは、各ビジネスユニット、事業部門、ローカルオペレーティングカンパニー (LOC)によりリスク(人的資本リスクを含む)が特定され、評価され、関連するローカル委員会に報告されま す。したがって、人財リスクはタケダ全体のどこからでも提起することができ、また、人事部門のリスク評価のなり かで直接提起することもできます。個々のリスク評価は、すべて企業リスクヒートマップに集約され、リスク・エ



シックス&コンプライアンス・コミッティー(RECC)や取締役会が企業全体を把握できるようになります。さら に、リスク緩和策の有効性と残存するリスクを評価し、必要に応じて優先順位をつけ、さらなる対策を講じること ができます。

の獲得・育成・維持

タケダの研究開発 - 人材 │ 2020 年度、研究開発部門は、エビデンスと価値観(バリュー)に基づいたダイバーシティ、多様性・公平性・包括性 (DE&I)戦略を策定するために、数ヶ月にわたる包括的なプロジェクトに着手しました。この戦略では、「多様な 人材 | 「インクルーシブなチーム | 「インクルーシブなエコシステム | 「多様性・公平性・包括性(DE&I)の実現 | の4 つのエリアに焦点を当てています。この4つの柱を同時に実行することで、短期的、長期的の両方に焦点をあてること ができ、研究開発部門はあらゆるバックグラウンドを持つ優秀な人材に選ばれる企業となることができます。戦略の柱 である「多様な人材」と「インクルーシブなチーム」は人材を惹きつけ、雇用し、育成し、定着維持することを支援し ます。また、「インクルーシブなエコシステム」は、将来に向けてより多様な人材を育成するのに役立ちます。以下 は、私たちの取り組みの概要です。

優秀な人材の採用-タケダの R&D

革新的なパイプラインや、患者さんの生活に影響を与える素晴らしい機会があることをアピールすることで、研究開発 に携わる科学者やその他の専門家からなるグローバルな人材コミュニティを構築することを目指しています。社内の Diversity, Equity & Inclusion Cause ネットワーク、従業員資源グループ、人事チーム、外部資源を活用して、社内外の 多様な人材を発掘しています。インターンシップや早期キャリアの機会を再構築し、将来の人材への働きかけを支援し ています。

タレント・アクイジション(優秀な人材の採用)2021年度/2022年度の具体的な取り組みは以下の通りです。

- 先入観や偏見を持たないようにするためのツールの導入(技術提供企業と最終調整中)
- 多様性・公平性・包括性(DE&I) および Behavioral Based Interview トレーニングの実施
- 応募者追跡システム(ATS)と連携した候補者関係管理(CRM)ツールを全社的に導入し、包括的な人材コミュニ ティを構築
- 新たな R&D キャリアページとブランディング/ソーシャルメディアキャンペーンの実施



人材の育成と定着

全従業員が生涯学習を通じて、自ら関係を持ち尊重され、話を聞いてもらえていると感じてもらうことで、自らの可能 性を実現することができる環境づくりに努めています。研究開発部門の全従業員が自分のニーズに合った能力開発を行 えるように、教訓的なものから経験的なものまで、様々な能力開発の機会を提供しています。

多様性・公平性・包括性(DE&I)

私たちのアプローチ

- 多様で、公平で、包括的で、安全で、オープンで、協働しやすい職場環境の推進へのコミットメント:タケダ・グ ローバル行動規準(416ページ)
- 多様性・公平性・包括性(DE&I)の取り組みとタケダ・資源グループの例:2021 統合報告書(45~48 ページ)
- ジェンダー・バランスの推進
- 臨床試験及びヘルス・イクイティ(すべての人々が最高レベルの健康の達成できること)における多様性への改 善:2021 統合報告書(32ページ)
- 私たちはこれまでも、そしてこれからも、多様性、公平性、包括性に焦点を当てた人材獲得プロセスを強化してい。 きます。現在、様々な取り組みが行われています。
 - **ソース**:より多くの社会的地位の低い候補者がアクセスできるような人材ソースを追加することを約束します
 - **データの見直し**:潜在候補者が採用活動をどのように受け止めているかを理解するために、調査データやウェ ブサイトの分析を継続して行っています
 - **サーチパートナー**:人材紹介会社と協力して、候補者名簿に多様な人材を反映させるようにしています
 - 技術とプロセス:無意識の偏見を減らすためにいくつかの戦略を見直しています。 具体的には、米国ではイン テーク・ディスカッション、部門横断面接パネル、正式な報告会を重視し、面接プロセスを修正しました。ま た、職務記述書を分析し、候補者が意図せずに応募を断念する可能性のある単語やフレーズを検出する技術を テストしています

S=サステナビリティ会計基準審議会(SASB)のバイオ・製薬産業基準に沿った報告を示しています。

W=世界経済フォーラムとその国際ビジネス協議会(IBC)が発表したステークホルダー資本主義に沿った報告を示しています。

W



ともに働く仲間のために

カテニ	ゴリー・指標	2020 年度のデータ
	人的資本	
W	グローバルでの総従業員数	51,197
	女性の割合	52%
	男性の割合	48%
	年齢グループ 1: <30	19%
	年齢グループ 2: 30 - 50	62%
	年齢グループ 3: >50	19%
	管理職(女性)の割合	41%
W	採用数の合計	16,532
	採用数-女性	9,922
	採用数-男性	6,235
	採用数の合計 – 未定	375
	採用数-年齢グループ 1: <30	7,377
	採用数-年齢グループ 2:30 - 50	7,993
	採用数-年齢グループ 3:>50	1,162
	採用数-日本	533
	採用数-U.S.	10,524
	採用数- EUCAN	2,781
	採用数- GEM	2,694
	全従業員に占める採用者の割合	32%
	リーダーシップにおけるレジリエンス学習プログラムに参加したマネージャー数	4,500
	労働災害度数率(20 万労働時間あたり) 1	
w 📝	労働災害度数率(休業災害および不休業災害)	0.91
w 📝	休業災害度数率	0.25
	死亡者数	0
	死亡者率	0

備考:

- 1 労働災害のパフォーマンス指標に関する集計範囲には、すべての製造・研究開発拠点、米国・オーストリアの血漿採取センターおよびオフィス拠点を含んでおり、全従業員の約 95%をカバーしています。
- W 世界経済フォーラムとその国際ビジネス協議会(IBC)が発表したステークホルダー資本主義に沿った報告を示しています。
- 🚺 特定のパフォーマンス指標は Apex Companies, LLC(第三者保証)により承認されており、本レポートの最後に独立した第三者保証報告書があります。



いのちを育む地球のため		
私たちの取り組み		
私たちの取り組み	• <u>サステナビリティレポート 2020</u> (47 ページ)	
気候変動の緩和と適応		
気候変動に関するガバナ ンス	 CDP 気候変動 2020 カーボンニュートラルガバナンスチーム: サステナビリティレポート 2020 (52-53 ページ) 	W
戦略	 気候変動が私たちの地球と将来の生活様式に与える影響は、今日の世界が直面している最大のリスクのひとつであり、人々の健康にも大きな影響を及ぼします。気候の変化は、これまで以上に熱波や異常気象、大気の質の低下の頻度を高め、安全な水や天然資源を脅かします。これらの変化は、世界中で人の移動を促し、感染症の蔓延パターンを変え、既存の健康問題を重大化させます。 パリ協定をはじめとする、気候変動を産業革命以前の水準から2°C未満に抑えるための国際的な取り組みを支持しています。科学的根拠に基づく目標(SBTi)を設定し、事業活動による温室効果ガス(GHG)排出量の削減と、検証済みカーボンオフセットの購入の活用により、2020年にカーボンニュートラルを達成しました(2019年度の排出量に対し)。「気候変動に対するタケダの見解」を発行し、気候変動の緩和や様々な気候政策の支持を表明しています。また、タケダは製薬業界が環境に与える影響を最小化するために活動している製薬業界サプライチェーンイニシアチブ(PSCI)、製薬業界環境グループ(PEG)、欧州製薬団体連合会(EFPIA)などの業界団体やフォーラムに参加しています。 	W
	 気候シナリオ分析とタケダへの影響:気候変動が事業活動やサプライチェーン、患者さんや社会全体に多大な影響を及ぼす可能性があることを認識しています。事業に影響を及ぼす可能性のある気候変動リスクと機会についての理解を深め管理するために、2020年度に自社の事業活動を対象とした気候シナリオ分析を実施しました。この分析では、当社の所有・賃貸資産の90%以上を占める主要事業地域を対象に、気候変動シナリオのモデル化を行いました。また、気候変動が与える戦略的・財務的影響を評価するために、複数の時間軸(2030年および2050年)、および排出シナリオ(4℃シナリオ、2.5℃シナリオ、1.5℃シナリオ)における物理的リスクと移行リスクを評価しました。 第一段階の気候シナリオ分析は、潜在的な気候変動リスクと機会を特定し、その可能性と大きさに関する重要 	



なインサイトをもたらしました。この情報はタケダの戦略的事業計画および財務計画に反映されます。

- この分析結果に基づき、タケダは、2021 年度に TCFD に沿った報告書を公開する予定です。さらに、サプラ イチェーンにおける気候変動リスクを評価する第二段階の気候変動シナリオ分析を実施する予定です。
- **気候変動リスク**:気候シナリオ分析のアウトプットに基づき、以下のような気候関連のリスクと機会を特定しまし た。

物理的なリスク

- 直接的なオペレーションに対する物理的リスク:グローバルに事業を展開している他の企業と同様に、気候変 動リスクが放置された場合、山火事や極端な降水量などの急性物理的リスクや、持続的な高温や水ストレスな どの慢性物理的リスクにより医薬品の研究開発、製造、流通を阻害する可能性があります。

移行リスク

- 炭素価格と関連政策:新たな炭素価格政策により、自社の事業活動に追加費用が発生する可能性があります が、私たちはカーボンニュートラルを推進しており、炭素価格の影響を最小限に抑えることができます。ま た、サプライチェーン(輸送、流通、生産など)のなかで、価格転嫁の影響を受け、事業コストが上昇する可 能性があります。スコープ3の目標を達成するための行動は、相対的なリスク最小化することになります。
- エネルギーコストと関連政策:エネルギーコストと関連政策は、タケダにとって、リスクと機会の両方をもた らす可能性があります。エネルギー市場に対する義務や規制は、エネルギー源の選択に影響を与え、最終的に は事業コストや売上原価を含むエネルギーコスト、温室効果ガス(GHG)削減目標の達成に影響を与える可 能性があります。2025 年度までに 2016 年度比で温室効果ガス (GHG) 排出量を 40%削減することを目標と しており、エネルギー効率は向上します。また、再生可能エネルギーの調達により、GHG 排出量削減の機会 と将来のコスト削減の可能性があります。
- 従業員への影響:気候変動対策のリーダーは、人材の採用、維持することができるレピュテーショントのメリ ットがあります。低炭素経済への移行は、タケダの気候変動対策の目標とそれに伴う進捗状況に対する認知度 が優秀な人材を確保・維持に影響を与える可能性があります。タケダの気候変動に関するコミットメント、目 標、行動が目に見えることで、人材を惹きつけ、維持する機会が得られます。
- 評価の向上:気候変動対策でリーダーシップを発揮すると、社会的評価にもつながります。患者さんや医療関 係者、投資家、その他のステークホルダーは、気候変動に対するタケダの姿勢や気候変動関連の取り組みを理 由に、タケダへの関心を高めたり、または遠ざけたりする可能性があります。



意マネジメント
指標と目標
リスクマネジメント



全)管理システム	 環境マネジメントシステムのベストプラクティスへの取り組み:3年以内にすべての製造拠点でISO14001 および ISO45001 の認証を取得することを目標にしています。サステナビリティレポート 2020 (54-55ページ) 環境リスクアセスメント (ERA): 医薬品の使用が環境に与える潜在的なリスクを分析するために、ERA を使用しています。医薬品のライフサイクルの全てにおいて、医薬品が環境に与える潜在的な影響を調査・理解する責任があると認識しています。そのため、医薬品の製造、使用、廃棄が人の健康や環境に悪影響を及ぼさないようにするために、リスク評価の基礎となる関連データの開発に取り組んでいます。 	
プロダクト・スチュワードシップ	 エコデザインへの取り組み:医薬品におけるエコデザインとは、製品開発において応用される統合的なアプローチであり、健康や環境への悪影響を軽減しつつ、患者さんに意図した治療効果を提供することに焦点を当てています。研究開発部門の薬学グループでは、安全性に妥協することなく、サステナビリティを確保することが重要な課題となっています。医薬品のライフサイクル全体を通して、健康や環境に有害な影響を与えないように設計することを目指しています。Life Cycle Assessment (LCA)やサーキュラーエコノミー(循環型経済)の考え方を設計プロセスに取り入れ、原材料の消費と安全性、エネルギー消費、自然環境への放出、健康、気候への影響などに着目したプログラムを開始しました。例えばサステナビリティガイドブックでは、低分子化合物の開発において、グリーンケミストリー原則を推進し、有害な溶剤の使用を減らし、それに伴う環境や健康への影響を低減しています。溶剤の使用が避けられない場合は、より安全な代替品を選択するためのガイダンスを提供しています。包装設計者に対しては、二次・三次包装の設計において、再生繊維や持続可能な方法で栽培された繊維の使用を推進しており、LCAに基づいた包装エコデザインツールの展開を進めています。 医薬品の回収、再利用、廃棄:関連する業界団体と協力し、医薬品の回収プログラムを支援・参加しています。また、患者さんやエンドユーザーの方々に、不要になった、あるいは期限切れの医薬品やシャープスを安全に返却・廃棄するための教育を支援しています。必要に応じて、改善計画や改善ロードマップを含め、未使用の医薬品やシャープの回収活動に関する基本的な理解を深めます。タケダの社外の医薬品プログラムへの支援は、現在、米国でのみ行われています。私たちの支援により引き取られた医薬品は、約225品目(総販売数量24,620,000個)に上ります。米国のプログラムで回収された廃棄物は、医薬品が167.4トン、シャープが72トンとなっています。現在、他の地域でのプログラムの実施を検討中です。 タケダのプロダクト・スチュワードシップに関する目標:2021統合報告書(62ページ) 	
環境プロジェクト: スナ	 サステナビリティレポート 2020 (56-57 ページ) 及び 2021 統合報告書 (57~63 ページ) 	



ップショット		
然資源の保全		
水	 タケダ CDP ウォーターセキュリティ 2020 水の管理への取り組み: サステナビリティレポート 2020 (58 ページ) ウォーター・スチュワードシップ: 2021 年にウォーター・スチュワードシップ・ポリシーを発表します。タケダは、2025 年度までに水使用量の 5%削減 (2019 年度比)の達成を目指します。 水リスクの研究: 水リスクの高い地域にあるすべての拠点を特定するための調査を完了しました。これらの拠点での水の取水・消費に関する基本的な理解を深め、ストレスの高い地域の水管理と水源保護について、リスクに応じたアプローチを行います。2021 年には、水リスクに関連する財務上の影響を含め、これらの拠点の緩和計画を策定します。 ステークホルダーとの協働: 水リスク研究の一環として、地域の主要なステークホルダーとその地域でのコラボレーションの機会を提供しています。例えば、ブラジルのジャガリウナでは市と協力して水のリサイクル/再利用プロジェクトを実施していますし、レシーヌの拠点では地元の関係者と協力して水のリサイクル/再利用プロジェクトを実施する予定です。 	W
排水・化学物質	 排水・化学物質管理への取り組み: サステナビリティレポート 2020 (59-60 ページ) 環境中の医薬品化学物質 (PiE): PiE は、環境中の医薬品の潜在的な影響を理解し、管理・コントロールするためのライフサイクルアプローチです。タケダの PiE アプローチは「環境リスク評価」、「医薬品の回収」、「排水管理」の3つの活動からなります。2021 年に PiE 立場表明書を発行する予定です。欧州製薬産業団体連合会 (EFPIA) と提携し、医薬品の環境リスクを特定・定量化する方法の改善に取り組んでいます。 公共排水から医薬品残留物をなくす取り組み:環境への影響、特に水生生物への影響や、長期間にわたる医薬品混合物の曝露に関連する影響などについての継続的な研究を支援しています。欧州製薬産業団体連合会 (EFPIA) と協力して、医薬品の環境リスクを特定・定量化する方法の改善に取り組んでいます。2021 年度に発行予定の PiE 立場表明書では、リスクに関する理解と、排水中の活性医薬品の残留を最小化する取り組みについて述べています。 	
廃棄物	 廃棄物管理: サステナビリティレポート 2020 (60 ページ) 資源循環: ライフサイクル全体の影響を評価し、循環型の選択のための基礎となる LCA プログラムを開始しまし 	V



た。2025 年度までに、医薬品の二次、三次包装を形成する紙とファイバーボードのうち、少なくとも 50%(重量 比)はリサイクル素材、または森林認証(Forest Stewardship Council(FSC)、Sustainable Forestry Initiative (SFI)、Programme for the Endorsement of Forest Certification (PEFC) など)にするという持続可能な包装材 に関する目標を発表しました。

- 有害廃棄物:各拠点には、有害廃棄物管理に関するガイダンスが提供され、これには廃棄物管理基準に則した全社 にわたる廃棄物削減の方針が含まれます。必要に応じて、改善ロードマップを含め、有害廃棄物の発生に関するべ ースラインの理解を深めています。規制対象となる廃棄物の発生量をパフォーマンス指標として以下の表で報告し ています。73%の拠点は、ISO14001 または同等の規格(45001)の認証を得ています。各拠点には、有害廃棄物 管理に関するガイダンスが提供され、これには廃棄物管理基準に則した全社にわたる廃棄物削減の方針が含まれま す。
- 温室効果ガス (GHG) 以外の大気排出:温室効果ガス (GHG) 以外の大気汚染物質の重大な排出はありません。事 業活動における化石燃料の燃焼に起因する硫黄酸化物(SOx)、亜酸化窒素(NOx)の年間排出量、および揮発性 有機化合物(VOC)の排出量を以下の表で報告しています。

S=サステナビリティ会計基準審議会(SASB)のバイオ・製薬産業基準に沿った報告を示しています。

W = 世界経済フォーラムとその国際ビジネス協議会(IBC)が発表したステークホルダー資本主義に沿った報告を示しています。



いのちを育む地球のために

カテゴリー・指標	2020 年度のデータ
エネルギー(TJ)	
☑ 総エネルギー消費量	7,890
▼ 購入電力(非再生可能)	2,000
▼ 購入電力(再生可能)²	836
√ 自家発電(再生可能電力)	4
✓ 電力における再生可能エネルギーの割合 ³	30%
グリーン電力証書(RECs)を含む再生可能電力の割合⁴	進行中
✓ 供給された温熱・冷熱	103
▼	4,860
温室効果ガス(GHG)排出量(1000 MTCO2e) ⁶	
温室効果ガス(GHG)総排出量 ⁷	4,909
₩ 📝 スコープ 1 排出量	303
CO2	289
CH4	0.014
N2O	0.003
冷媒(HFCs, CFCs, HCFCs)	13.6
₩ ✓ スコープ 2 排出量:ロケーションベース	288
☑ スコープ 2 排出量:マーケットベース	226
W スコープ3排出量:該当するすべてのカテゴリー	4,380
第1カテゴリー	3,710
第 2 カテゴリー	50
第4カテゴリー	458
第 7 カテゴリー	43
第 10 カテゴリー	6
その他の該当するカテゴリー	115
カーボンニュートラル⁴	
購入済のカーボンクレジット(VERs)- 1000 MTCO2e ⁸	進行中
購入済 RECs - TJ	進行中
購入済 VERs および RECs による GHG 排出量の削減	進行中



カテコ	`リー・指標	2020 年度のデータ
	大気への排出量(トン)	
w 🔽	硫黄酸化物(SOx)および窒素酸化物(NOx)排出量 ⁹	118
	VOCs	126
	水(1000 m3)	
	取水量	10,770
V		1,180
V	水リスクが「低から中」地域での取水量 ¹⁰	9,590
w 🔽		2,280
w 🗸	水リスクが「高から非常に高い」地域での水消費量 ¹⁰	174
V	水リスクが「低から中」地域での水消費量 ¹⁰	2,100
w 💟		20%
\checkmark	排水量	8,490
	化学的酸素要求量(COD)排出量(トン) ¹²	51
	廃棄物(トン)	05.400
V	75 K 13 16 7 5	85,400
V	規制対象廃棄物総発生量	41,200
V	非有害廃棄物総発生量	44,300
V	廃棄物のリサイクル率 ¹³	73%
V	廃棄物の埋立処分率	16%
V		84%
√	<u>重大な漏出と排出</u> ☆ 担告に発展しません。	6
V	法規制違反件数 重大な漏出の件数と量	0
	里人な漏出の什数と重 プロダクト・スチュワードシップ(トン) ¹⁴	U
S	ロ収、再利用もしくは廃棄した製品の総量	239
	回収、舟利用もしくは焼業した製品の総里 環境マネジメントシステム	233
	境境マイングンドング)	20
V	天施された En3 血直天施数 ISO 14001 認証を受けている製造拠点の割合	73%
V	ISO 50001 認証を受けている製造拠点の割合	3%
V	ISO 45001 認証を受けている製造拠点の割合	53%



Notes:

- 1 武田薬品工業株式会社は、環境データの報告境界ガイドラインとして運用管理を選択し、以下の項目を含みます。
 - 総エネルギー消費量、スコープ1とスコープ2(マーケットベース、ロケーションベース)の温室効果ガス(GHG)排出量に関する集計範囲には、すべての製造・研究開発拠点、米国・ オーストリアの血漿採取センター、タケダ本社および営業所が含まれます。
 - その他のすべての環境パフォーマンス指標に関する集計範囲には、すべての製造・研究開発拠点、米国・オーストリアの血漿採取センター、およびデータが入手可能な主要なオフィス拠 点が含まれる。小規模なオフィス拠点は含まれません。
- 2 電力と発電源証明書の一体契約を通じて購入した再生可能エネルギーを含む。グリーン電力証書を通じて購入した一体契約外の再生可能エネルギーは除きます。
- 事業場内でコジェネレーションシステムや燃料電池システムで発電された電力と購入したグリーン電力証書分は除きます。
- 4 再生可能エネルギー証書(REC) および検証済み排出削減量(VER) の調達を通じて、スコープ 1、2、3 のすべての GHG 排出量を削減します。 2020 年度に必要な REC および VER の調達は現在進 行中であり、完了した時点で独立した検証を行います。
- 5 社用車で使用される燃料のエネルギー量は除く。社用車からの温室効果ガス(GHG)排出量は、スコープ1の排出量に含まれる。「 Greenhouse Gas Inventory Guidance, Direct Emissions from Stationary Combustion Sources」(U.S. EPA, 2016 年 1 月)の単位発熱量を使用して算出しています。
- 6 スコープ 1 排出量は、「GHG Protocol Emission Factors from Cross-Sector Tools | (2017 年版)の GHG 排出係数を使用して算出。スコープ 2 ロケーションベースの購入電力由来の GHG 排出量は、 JEA と U.S.EPA が公表している国別排出係数を用いて算出。スコープ 2 のマーケットベース排出量における購入電力の排出係数は、入手可能な場合はサプライヤー固有の係数で、入手不可能な場 合は IEA および U.S. EPA が公表している国別排出係数を用いて算出しています。スコープ 3 排出量のデータは現在進行中であり、完了した時点で独立した検証を行います。
- 7 温室効果ガス (GHG) 総排出量は、マーケットベースのスコープ 2 排出量を用いて算出。
- 8 供給された温熱・冷熱からのスコープ 2 温室効果ガス(GHG)排出量に加えて、スコープ 1 およびスコープ 3 の温室効果ガス(GHG)排出量をカバーするのに十分なカーボンクレジット (VERs) を購入。温室効果ガス(GHG)総排出量は完了した時点で開示します。
- 9 NOx および SOx 排出量は、U.S. EPA の出版した「Compilation of Air Pollutant Emission Factors, AP-42, Fifth Edition, Volume 1: Stationary Point and Area Sources」(大気汚染物質排出係数の編集、AP-42、 第5版、第1巻:固定排出源および地域の発生源)の排出係数と燃料消費量から算出しています。
- 10 世界資源研究所 Aqueduct 3.0 ツールの Overall Water Risk に基づく。水の物理的リスクと質的リスク、規制リスク、レピュテーションリスクの各カテゴリーを評価し、総合的な水リスクを算出。 数値が大きいほど水リスクが大きいことを意味します。
- 11 水消費量は、取水量から排水量を差し引いたものを表す。
- 12 化学的酸素要求量 (COD) 排出量は、公共用水域への直接排出を対象に算出。
- 13 リサイクルには、社外での再利用とエネルギー回収を伴う焼却量が含まれます。
- 14 データは、医薬品引取プログラムのスポンサーシップに関する米国市場についてのみ入手可能です。
- 15 EHS 監査には、コーポレート EHS が管理する内部および外部の第三者監査が含まれます。
- **S** サステナビリティ会計基準審議会(SASB)のバイオ・製薬産業基準に沿った報告を示しています。
- W 世界経済フォーラムとその国際ビジネス協議会(IBC)が発表したステークホルダー資本主義に沿った報告を示しています。
- ▼ 特定のパフォーマンス指標は Apex Companies, LLC(第三者保証)により承認されており、本レポートの最後に独立した第三者保証報告書があります。



価値に基づくガバナンス

コーポレートガバナンス

私たちのアプローチ	コーポレートガバナンスの概要と経営体制コーポレートガバナンスレポート	
取締役会とタケダ・エグゼ クティブ チーム(TET)の構 成	 取締役会及びTETの構成(多様性、役割、独立性を含む): 2021 統合報告書(72~76 ページ) 監査等委員会および指名委員会、報酬委員会: 2021 統合報告書(73~74 ページ) およびコーポレートガバナンスレポート 取締役のプロフィールおよび取締役会の出席率: 年次有価証券報告書 2020(85 ページ、95~97 ページ) 	w
トータルリワードおよび報酬	 報酬に対する考え方の概要: 2021 統合報告書 (77 ページ) 役員報酬の詳細: タケダの役員報酬の概要 取締役報酬の詳細: コーポレートガバナンスレポート 企業理念と長期インセンティブ: 患者さんへのコミットメントを示すとともに、革新的な研究開発プログラムを提供することで、タケダの総合的なパフォーマンスの将来性を反映するため、ピボタル試験を開始し KPI として使用しています。 タケダの役員報酬の概要 (8 ページ) 	w
株主との対話	 株主およびステークホルダーのための施策: コーポレートガバナンスレポート 株主との対話への取り組み: 2021 統合報告書 (74 ページ) 定時株主総会に関する情報 (決議通知および議決権行使の結果を含む): 株主総会 	
サステナビリティへの取り組 みに関するガバナンス	 サステナビリティレポート 2020 (67 ページ) 患者さん、従業員、そして地球に対するコミットメントと価値観 (バリュー) に基づき、患者さんと株主の皆様にとっての価値を最大化するために資本を配分します。タケダは、世界中の人々の健康と輝かしい未来に貢献するために存在する、存在意義 (パーパス) 主導型の組織です。私たちは、グローバルな課題に対応した持続可能な事業戦略を維持しています。これをすべてのステークホルダーに伝えるために、タケダの取締役会が主要な資本配分の決定を監督する際に、経済的、環境的、社会的問題をどのように考慮するかを反映した資本配分方針を更新しました。 	w



私たちのアプローチ	リスク・クライシスマネジメントへの取り組み	
	− 内部統制とリスク管理に関する事項:コーポレートガバナンスレポート	
	■ 関連する内部方針および手順:サステナビリティレポート 2020 (81 ページ)	W
	● EHS 監査の一元化: <u>サステナビリティレポート 2020</u> (82 ページ)	
努コンプライアンス		
私たちのアプローチ	税務コンプライアンスに対するタケダの見解	
	・ 税務コンプライアンスに対する取り組み:サステナビリティレポート 2020 (68 ページ)	
質管理		
私たちのアプローチ	■ 品質ガバナンスと戦略: サステナビリティレポート 2020 (69 ページ)	
医薬品の品質と安全性	品質を重視し、品質の継続的な向上を図ることが、タケダのビジョン及びバリューの基盤となっています。私たち一人ひとりには、患者さんとその安全を第一に考え、私たちの仕事が最高水準のエクセレンスを満たし、規制当局の要求に準拠していることを実証する責任があります。そのため、行動の記録、矛盾や違反の報告、必要な是正措置を行い、最高の倫理基準を持って行動します。タケダの品質に対するビジョンには、次のものが含まれます。 ・ サイエンス: 医薬品およびプロセスに関する知識 (新技術、分析開発) ・ システム: 統合品質システム、サプライヤー品質管理 ・ 従業員:知識、スキル、リーダーシップの開発、パフォーマンスマネジメント、人材育成すべての行動において、以下を含む「品質に対するビジョン」を重視しています。 ・ 活動事項 ・ タケダイズムに従い、クオリティの高い文化を推進する ・ 教訓やベストプラクティスに基づいた学習環境の維持 ・ 連携を重視したパートナーシップの構築	S



	- サービスと価値の管理、アジリティ	
	- コンプライアンス管理	
	- 検査の成功	
	- 外部への影響力	
	詳細はサステナビリティレポート 2020 (70-71 ページ) をご覧ください。	
	安全性に関する警告が出ているタケダの医薬品は、FDA MedWatch Safety Alerts for Human Medical Products のデー	
	タベースに掲載されています。2020年2月、ボンベンディ®2ロットを米国内で限定的に自主回収しました。詳細は、	
	この件に対する <u>プレスリリース</u> をご覧ください。過去の製品リコールは、FDA Drug Recalls <u>データベース</u> に掲載されて	
	います。	
偽造医薬品対策	偽造薬、模造薬および医薬品の違法取引に対するタケダの見解	
	● 偽造医薬品対策:サステナビリティレポート 2020(71 ページ)	:
	● 改善と教育のためのパートナーシップ: <u>サステナビリティレポート 2020</u> (78 ページ)	
プライチェーン		
私たちのアプローチ	 → 持続可能な調達への取り組み 	
	ステナビリティレポート 2020 (72-74 ページ)。行動規準およびそれに関わる環境・社会方針に関する研修は、新	
	たな調達担当者が入社する際の新人研修の一環として提供されます。	
	サプライヤー行動規準	
	サプライヤーデューデリジェンスおよびパートナーシップと業界連携:サステナビリティレポート 2020 (73-75 ペ	
	ージ)	
	● サプライヤーの多様性: サステナビリティレポート 2020 (76-77 ページ)	
サプライヤーの多様性&		
ファブート の多体正の		
ンクルージョン	ケダの価値観(バリュー)である「1.患者さんに寄り添い(Patient)、2.人々と信頼関係を築き(Trust)、3.社会的評	
	ケダの価値観(バリュー)である「1.患者さんに寄り添い(Patient)、2. 人々と信頼関係を築き(Trust)、3.社会的評価を向上させ(Reputation)、4.事業を発展させる(Business)」(PTRB)に沿ったものです。	



- **存在意義(パーパス)実現のためのパートナーシップ**:タケダの事業やサプライチェーン全体に価値をもたらす、 小規模で多様性のある企業や支援団体と提携します。
- **経済効果の創出**: 雇用の創出を通じて、私たちが暮らし、働く地域社会を支援します。
- **価値観(バリュー)を支える**: お客さまの要求に応える一お客さまの価値に寄り添います。

ダイバーシティ&インクルージョン・プログラム:

- 調達方針のなかで、調達業務において多様なサプライヤーを含めることを定め、小規模で多様なサプライヤーを見 つけるための資源の提供を行います。
- タケダの調達部門および取引先一と共に、既にお取引のある、またこれから取引を開始する多様なサプライヤーを 支持します。
- 大規模かつ戦略的なサプライヤーとともに、供給網の中で更にインクルージョンを促進する機会と革新的な方法を 追求していきます調達部門やステークホルダー向けに、既にお取引のあるサプライヤー、そしてこれから取引を開 始するサプライヤーを紹介するサプライヤー・デーを開催しています。

メンタリングと開発:

毎年、最低でも 4~5 社の既に取引のあるサプライヤー、そしてこれから取引を開始するサプライヤーに正式なメンタ リングプログラムを通じて助言を行っており、ビジネスの成功と多様なコミュニティへのポジティブな影響が評価され ています。サプライヤーは最長1年間、調達担当者またはビジネスステークホルダーとペアを組みます。このプログラ ムでは、様々な企画や教育を通じて、多様なサプライヤーの事業のさらなる発展を支援します。今年は、地域レベルで のインクルージョンに取り組むためのプログラムを継続的に開発し、まもなくグローバルレベルでのプログラムの拡大 を予定しています。 これらのプログラムには、従業員が調達ニーズを説明し、その製品やサービスを提供できる多様な サプライヤーのリストを作成することで、多様なサプライヤーを探すことができる新しい資源提供も含まれます(まず は米国で開始)。

米国では Diversity Alliance for Science、WBENC、NGLCC、NMSDC、Disability:IN、NVBDC などの様々な NGO を 通じて、また世界的には WEConnect International などのグループを通じて、開発やアドボカシー活動を続けていま す。



● 倫理的・マーケティングの推進と実践:サステナビリティレポート 2020(78 ページ)
▲
 私たちは、決してタケダ製品の未承認効能向け販売促進を行いません: タケダ・グローバル行動規準 (2ページ)
 サステナビリティレポート 2020 (79 ページ) バイオシミラー医薬品に対するタケダの見解
様々なヒト疾患に対する新しい治療法の妥当性を判断するには、多くの場合、動物実験が不可欠ですが、私たちは動物実験における代替法の利用、使用動物数の削減、苦痛の軽減という「3R」に取り組み、その推進を積極的に行っています。タケダの動物実験施設は AAALAC International の認定を受けており、動物管理は動物愛護並びに取り扱いに関する委員会 IACUC)で審査されています。研究責任者、研究スタッフ、IACUC メンバーに対して、3R に関する研修を実施しています。タケダに代わって動物実験を行う契約研究機関は、タケダの原則とコミットメントに沿って実施されているかどうかを監視するために、バーチャルまたはオンサイトの福祉監査を受けます。
タケダは 3Rs Translational and Predictive Sciences Leadership Group をはじめとする、医薬イノベーションや品質に関するベストプラクティスの共有を目的とした様々なリーダーシップグループを支援している IQ コンソーシアムのメンバーです。また、3R の原則やベストプラクティスを実践している従業員を表彰する 3R アワードを毎年開催しています。動物実験プログラムは、前臨床のグローバルヘッドおよびトランスレーショナル サイエンスにより監督され、ヘッドオブリサーチに報告された後、最終的にはタケダのプレジデント、タケダリサーチ&デベロップメントに報告されます。



責任ある臨床試験の実施

臨床試験は、科学的に設計された治験実施計画書に基づき、被験者への潜在的なリスクと被験者および社会にもたらさ れる可能性のある利益とのバランスを考慮して計画されます。ヘルシンキ宣言 2013、医薬品規制調和国際会議(ICH) における医薬品の臨床試験の実施の基準(GCP)、欧州製薬団体連合会(EFPIA)/米国研究製薬工業協会(PhRMA) の原則を含む国際基準やルールに従って、法規制を遵守して実施されます。

タケダが協働する治験担当医師は、ICH GCP およびその他の適用される原則と基準に従って業務を遂行することに合意 しています。タケダは臨床試験に携わる従業員の立場に応じ、タケダの方針や標準作業手順書、行動規準、倫理・コン プライアンスに関する方針の研修、ヒトを対象とした研究の実施に関する生命倫理基準などの教育を実施しています。

タケダのグローバルスタンダードに基づき、GCP に準拠した独立倫理委員会の承認または肯定的意見を得るまでは、治 験を開始し、または大幅な変更は行いません。治験のすべての過程において患者さんを保護し、治験の質を確保するこ とを目的としたグローバルクリニカルクオリティーとグローバルセーフティー機能を有しています。社内手順では、す べての国や地域における品質と患者さんの安全の管理に関する基準を設定しています。プロセスと手順の遵守状況を評 価する内部監査を実施するとともに、規制当局による査察も受けています。また、懸念事項を報告するためのエスカレ ーションプロセスが整備されており、グローバルクオリティチームを通じてタケダエグゼクティブチームが監視してい ます。また、多くの国では、治験参加者は個人情報の取り扱いについて、その国のデータ保護当局に懸念を申し立てる 権利を有しています。欧州のデータ保護当局のリストはこちらをご覧ください。

患者さんの命にかかわる治療を早期にかつ中断されることなく受けられるようにする目標は、私たちの医薬品アクセス 戦略の重要な要素です。治験後アクセス(Post-Trial Access: PTA)は、臨床試験終了後も治験薬による治療を必要とす る適格な治験参加者に対して、治療を継続できるようにすることに貢献しています。PTA の仕組みについての詳細は、 こちらをご覧ください。Takeda.com.

臨床試験終了時に、治験担当医師に対し、治験実施施設の被験者レベルのデータを提供しています。タケダがスポンサ ーとなって実施した第 2-3 相の治験や第 4 相の承認化合物の介入がある臨床試験、および当社の医療機器を評価する臨 床試験について、試験結果を記載した原稿を、試験終了後(市販品の場合)、または規制当局による承認、または治験 薬の開発中止または終了の判断後、18 か月以内に提出するよう努めています。タケダの臨床試験に関する詳しい情報は こちらをご覧ください。



シックス&コンプライブ	タケダは臨床開発プログラムに対する医薬品の臨床試験の実施の基準(GCP)における査察に対し、問題なく対応しています。米国食品医薬品局(FDA)が実施した GCP 査察の詳細は、「FDA 査察分類データベース」の「バイオリサーチモニタリングプロジェクト」に記載されています。これらの査察はいずれも問題なく終了しています。詳細はサステナビリティレポート 2020 (80 ページ)をご覧ください。	
私たちのアプローチ	 倫理・コンプライアンス基準とガバナンス: サステナビリティレポート 2020 (80ページ) タケダ・グローバル行動規準 行動規準をはじめとする倫理・コンプライアンスの方針・基準に関する研修: サステナビリティレポート 2020 (78ページ) タケダ・エシックスラインは、タケダの価値観(バリュー)が守られていないと感じた場合に、従業員や一般の人々が質問や懸念を報告することができ、オンラインと電話で 24 時間、20 の言語で受け付けています。必要に応じて、匿名での通報も可能です。 誠意ある報告者が不利益を被ることが一切ないよう、ポリシーを定めています。タケダ・エシックスラインおよび懸念事項を提起するための社内の仕組みに関する詳細は、2021 統合報告書 (79ページ)をご覧ください。 	w
贈収賄禁止	 私たちのアプローチ: サステナビリティレポート 2020 (82 ページ) タケダの行動規準は、すべての従業員が誠実かつ公正さをもって外部のステークホルダーと交流することを定めています。 タケダ グローバル行動規準 (6 ページ) この立場を明確に示すために、医療関係者および医療機関との交流に関するグローバルポリシー、患者さんおよび患者団体との交流に関するグローバルポリシー、公務員および政府機関との交流に関するグローバルポリシー、贈収賄禁止グローバルポリシーを含むあらゆるグローバルポリシーを遵守しています。 サステナビリティレポート 2020 (78 ページ) 	w,
政策への影響力とロビイ!	 行動規準では、人々の健康増進を目的として、責任あるロビー活動を通じて公共政策に関する問題に取り組むことを定めています。 タケダ グローバル行動規準 (819 ページ) 各国の関連法、国際製薬団体連合会 (IFPMA) コード オブ プラクティス、各地の業界団体が定めた行動基準などを遵守した活動を推進しています。 	W



人権	● タケダのコミットメント: タケダ・グローバル行動規準	
	● 購買パートナーへの期待: <u>サプライヤー行動規準</u>	
	● デューデリジェンスと対策: <u>サステナビリティレポート 2020</u> (73-75 ページ)	
	方針とポジション・ステートメント	
	- 紛争鉱物に関するポジション・ステートメント	
	- カリフォルニア州サプライチェーン透明法	
	• 英国現代奴隷法に係る透明性の声明	
グローバルで展開する企業	の社会的責任(CSR)	
私たちのアプローチ	● CSR パートナーシップ及び企業市民活動の取り組みの概要: 2021 統合報告書 (80~81 ページ)	
	• CSR プログラムの詳細はこちら:現在活動中のプログラム	w
	● 公募案件の申請方法や基準についての詳細はこちら: <u>グローバル CSR プログラムの申請プロセス</u>	

S=サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) のバイオ・製薬産業基準に沿った報告を示しています。

₩=世界経済フォーラムとその国際ビジネス協議会(IBC)が発表したステークホルダー資本主義に沿った報告を示しています。



価値に基づくガバナンス

カテゴ	`リー・指標	020 年度のデータ
	エシックス&コンプライアンス	
W S S S	汚職防止方針および手順に関する研修を受けたビジネスパートナーの割合 ¹ 認可されたジェネリック医薬品の市場投入を遅らせるための支払いを伴う医薬品簡略承認申請(ANDA)訴訟の和解件数 ² 発展途上国での臨床試験に関連する法的手続きによる損失総額- JPY 虚偽のマーケティング活動に関する法的手続きに起因する損失総額- JPY 汚職・贈収賄に関連する法的手続きによる損失総額 - JPY	95% 0 0 0 0
W	詐欺、インサイダー取引、反トラスト、反競争、市場操作、不正行為、またはその他の関連法規の違反に関連する法的手続きによる損失総額-JPY 税務と経済的開示	0
W	過去 5 年間に販売された製品ラインの総売上高に占める割合 ³ 品質管理	3.5%
S	GMP (医薬品適正製造基準) に関連する FDA(米国食品医薬品局)の執行件数 サプライチェーン	0
	グローバルサプライヤー数 EcoVadis システム上の CSR&持続可能性スコアカード登録数 多様性のあるサプライヤーへの支出(多様性のあるサプライヤーの全カテゴリーは、小規模企業、大規模企業を含む、田尾陽性の全カテゴリー- USD 100 万	41,000 82 549.19
	PSCI サステナビリティ監査の実施数 グローバルで展開する企業の社会的責任(CSR)	7
W	長期的な企業市民活動への投資額(2016 年度~2020 年度) - JPY CSR パートナーシップ数 CSR パートナーシップの想定受益者数(2016 年~2025 年累計)	¥12.3 billion 16 17 million

Notes:

- 1 外部契約者を含む全従業員
- 2 武田薬品工業株式会社は、ANDA 申請者との間で、「遅延損害金」を支払う和解をしたことはありません。これには、ANDA 申請者が製品を発売した後、一定期間、当社ブランドの正規ジェネリ ック医薬品を発売しないという合意が含まれます。
- 3 2020 年 3 月期に遺伝性血管性浮腫発作抑制薬である TAKHZYRO や非小細胞肺がん治療薬 ALUNBRIG など、希少疾患やがん治療薬のポートフォリオが貢献しています。
- S サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) のバイオ・製薬産業基準に沿った報告を示しています。
- ₩ 世界経済フォーラムとその国際ビジネス協議会 (IBC) が発表したステークホルダー資本主義に沿った報告を示しています。

INDEPENDENT LIMITED ASSURANCE STATEMENT



To: The Stakeholders of Takeda

Introduction and objectives of work

Apex Companies. LLC (Apex) has been engaged by Takeda Pharmaceutical Company Limited (Takeda) to provide limited assurance of select sustainability data included in Takeda's Annual Integrated Report. This Assurance Statement applies to the Subject Matter included within the scope of work described below.

This information and its presentation in the Takeda's Annual Integrated Report ('the Report') are the sole responsibility of the management of Takeda. Apex was not involved in the drafting of the Report. Our sole responsibility was to provide independent assurance on the accuracy of the Subject Matter. This is the first year in which we have provided assurance over Takeda's sustainability data.

Scope of work

The scope of our work was limited to assurance over the following information included within the Report for the period April 1, 2020 through March 31, 2021 (the 'Subject Matter'):

Environmental Metrics:

- Scope 1 GHG Emissions
- Scope 2 GHG Emissions (location-based and market-based)
- Energy Usage
- Water withdrawal
- Wastewater discharge
- Water consumption
- Solid Waste Generation and Fate (regulated and non-regulated)
- Air Emissions (Sulphur Oxides and Nitrous Oxides)
- · Significant spills and incidents

Safety metrics:

- Recordable Cases and Rate
- Cases with Days Lost and Rate
- Fatalities

EHS Management Systems for Manufacturing Facilities

A summary of the assured data is attached to this statement.

Our assurance does not extend to any other information included in the Report.

Reporting Boundaries

The following are the boundaries used by Takeda for reporting sustainability data:

- Operational Control
- For total energy used, Scope 1 and Scope 2 market- and location-based GHG emissions: manufacturing and R&D sites, United States and Austria plasma collection centers, Takeda headquarters, and commercial office locations.
- For other environmental performance indicators: manufacturing and R&D sites, United States and Austria plasma collection centers, and larger commercial offices

where such data was available. Contributions from smaller commercial office locations are not included.

For Safety Metrics: All Worldwide Takeda Operations

Reporting Criteria

The Subject Matter needs to be read and understood together with the information regarding each metric as described in the Report.

Limitations and Exclusions

Excluded from the scope of our work is any verification of information relating to:

Activities outside the defined verification period

This limited assurance engagement relies on a risk based selected sample of sustainability data and the associated limitations that this entails. This independent statement should not be relied upon to detect all errors, omissions or misstatements that may exist.

Responsibilities

This preparation and presentation of the Subject Matter in the Report are the sole responsibility of the management of Takeda.

Apex was not involved in the drafting of the Report or of the Reporting Criteria. Our responsibilities were to:

- obtain limited assurance about whether the Subject Matter has been prepared in accordance with the Reporting Criteria;
- form an independent conclusion based on the assurance procedures performed and evidence obtained; and
- report our conclusions to the Stakeholders of Takeda.

Assessment Standards

We performed our work in accordance with Apex's standard procedures and guidelines for external Assurance of Sustainability Reports and International Standard on Assurance Engagements (ISAE) 3000 Revised, Assurance Engagements Other than Audits or Reviews of Historical Financial Information (effective for assurance reports dated on or after Dec. 15, 2015), issued by the International Auditing and Assurance Standards Board. Takeda's GHG emissions data were verified in accordance with the ISO 14064-3 Second edition 2019-04 on GHGs — Part 3: specification for guidance for the verification and validation of GHG statements. A materiality threshold of ±5-percent was set for the assurance process.

Summary of Work Performed

As part of our independent verification, our work included:

- 1. Assessing the appropriateness of the Reporting Criteria for the Subject Matter;
- 2. Conducting interviews with relevant personnel of Takeda;
- Reviewing the data collection and consolidation processes used to compile Subject Matter, including assessing assumptions made, and the data scope and reporting boundaries;
- 4. Reviewing documentary evidence provided by Takeda;
- 5. Agreeing a selection of the Subject Matter to the corresponding source documentation;
- 6. Reviewing Takeda systems for quantitative data aggregation and analysis;

- 7. Assessing the disclosure and presentation of the Subject Matter to ensure consistency with assured information.
- 8. Reperforming a selection of aggregation calculations of the Subject Matter;
- 9. Reperforming greenhouse gas emissions conversions calculations; and
- 10. Evaluating the design of internal systems, processes and controls to collect and report the Subject Matter.

Conclusion

On the basis of our methodology and the activities described above:

- Nothing has come to our attention to indicate that the Subject Matter is not fairly stated in all material respects; and
- It is our opinion that Takeda has established appropriate systems for the collection, aggregation and analysis of quantitative data.

Statement of Independence, Integrity and Competence

Apex is an independent professional services company that specializes in Health, Safety, Social and Environmental management services including assurance with over 30 years history in providing these services.

Apex has implemented a Code of Ethics across the business to maintain high ethical standards among staff in their day-to-day business activities.

No member of the assurance team has a business relationship with Takeda, its Directors or Managers beyond that required of this assignment. We have conducted this verification independently, and there has been no conflict of interest.

The assurance team has extensive experience in conducting assurance over environmental, social, ethical and health and safety information, systems and processes, and has over 20 years combined experience in this field and an excellent understanding of Apex's standard methodology for the assurance of sustainability data and verification of greenhouse gas emissions.

Christopher Ostermann, Lead Verifier

Apex Companies, LLC Kennesaw, Georgia

June 18, 2021

John A. Rohde, Technical Reviewer Apex Companies, LLC

Lakewood, Colorado



Summary of FY 2020 Data Subject to Assurance

Category/Metric	FY2020 Data (1)
Energy (Terajoules)	
Purchased Electricity (Non-Renewable)	2,000
Purchased Electricity (Renewable)	836
Onsite Generated Renewable Electricity	4
Percent Electricity Sourced as Renewable	30%
Supplied Heating and Cooling	103
Fuel Consumption ⁽²⁾	4,860
Total Energy Consumption ⁽²⁾	7,890
Greenhouse Gas Emissions (Thousand MTCO2e)	
Scope 1 Emissions	303
Scope 2 Emissions (Location Based)	288
Scope 2 Emissions (Market Based)	226
Air Emissions (Metric Tons)	<u>.</u>
Sulphur Oxides (SOx) and Nitrous Oxides (NOx) Emissions	118
Water (Thousand Cubic Meters)	<u>'</u>
Water Withdrawal	10,770
Water Withdrawal in Areas with High - Extremely High Water Risk	1,180
Water Withdrawal in Areas with Low – Medium Risk	9,590
Water Consumed	2,280
Water Consumed in Areas with High - Extremely High Water Risk	174
Water Consumed in Areas with Low – Medium Risk	2,100
% of manufacturing sites located in areas considered to have "high" or "extremely high" water risk	20%
Water Discharged	8,490
Waste (Metric Tons)	-
Total Regulated Waste Generated	41,200
Total Non-Regulated Waste Generated	44,300
Total Waste Generated	85,400
Percent Waste Recycled	73%
Percent Waste Sent to Landfill	16%
Percent Diverted from Landfill ((Recycled, Incinerated, Other)	84%
Health & Safety Incident Rates (per 200,000 hours worked)	
Total Recordable Incident Rate	0.91
Incidents with Days Lost Rate	0.25
Number of Fatalities	0
Fatality Rate	0
Significant Spills and Releases	l .
Number of Notices of Violation or Citations Received	6
Total Number and Volume of Significant Spills	0
Manufacturing EHS Certifications (% of Sites)	
ISO 14001	73% (22 sites)
ISO 50001	3% (1 sites)
ISO 45001	53% (16 sites)

⁽¹⁾April 1, 2020 to March 31, 2021, see full statement for boundaries (2)Excludes Fleet



免責事項

留意事項

本留意事項において、「レポート」とは、本レポート(添付資料および補足資料を含みます。)において武田薬品工業株式会社(以下、「武田薬品」)によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答および書面又は口頭の資料を意味します。本レポート(それに関する口頭の説明および質疑応答を含みます。)は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本レポートにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づく登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本レポートは、(投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく)情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で(受領者に対して提供される追加情報とともに)提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本レポートにおいて、「武田薬品」または「タケダ」という用語は、武田薬品およびその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあり得ます。同様に、「当社(we、us および our)」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます

将来に関する見通し情報

本レポートおよび本レポートに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標および計画を含む当社の将来の事業、将来のポジションおよび業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする(targets)」、「計画する(plans)」、「信じる(believes)」、「望む(hopes)」、「継続する(continues)」、「期待する(expects)」、「めざす(aims)」、「意図する(intends)」、「確実にする(ensures)」、「だろう(will)」、「かもしれない(may)」、「すべきであろう(should)」、「であろう(would)「」することができた(could)」、「予想される(anticipates)」、「見込む(estimates)」、「予想する(projects)」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではございません。

これら将来見通し情報は、多くの重要な要因に関する前提に基づいてお り、実際の業績は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の業 績とは大きく異なる可能性があります。その重要な要因には、日本および 米国の一般的な経済条件を含む当社のグローバルな事業を取り巻く経済状 況、競合製品の出現と開発、世界的な医療制度改革を含む関連法規の変 更、臨床試験成功の不確実性や規制当局による判断とその時期を含む臨床 製品開発に伴う課題、新規および既存製品の商業上の成功の不確実性、製 造上の困難や遅延、金利および為替の変動、市場で販売された製品又は候 補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、新規コロナウイ ルス・パンデミックのような健康危機が、当社が事業を行う国の政府を含 む当社とその顧客および供給業者に及ぼす影響、買収対象企業との PM(I 買収後の統合活動)の時期および影響、武田薬品の事業にとっての非中核 事業・資産を売却する能力およびかかる資産売却のタイミング、当社のウ ェブサイト(https://www.takeda.com/jp/investors/sec-filings/)又は www.sec.gov において閲覧可能な米国証券取引委員会に提出した Form 20-F による最新の年次報告書および当社の他の報告書において特定され たその他の要因が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則によ り要請される場合を除き、本レポートに含まれる、又は当社が提示するい かなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の 実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本レポートにおける武田 薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果又はその公表を示すものでは

医療情報

本レポートには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

なく、その予測、予想、保証又は見積もりではありません。

武田薬品工業株式会社

グローバル本社 〒103 - 8668

東京都中央区日本橋本町二丁目1番1号

TEL: 03-3278-2111(代表) FAX: 03-3278-2000(代表)

© Copyright 2021 Takeda Pharmaceutical Company Limited. All rights reserved.